資料１

令和７年度
第１回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議

父島：2025年６月25日
母島：2025年７月７日

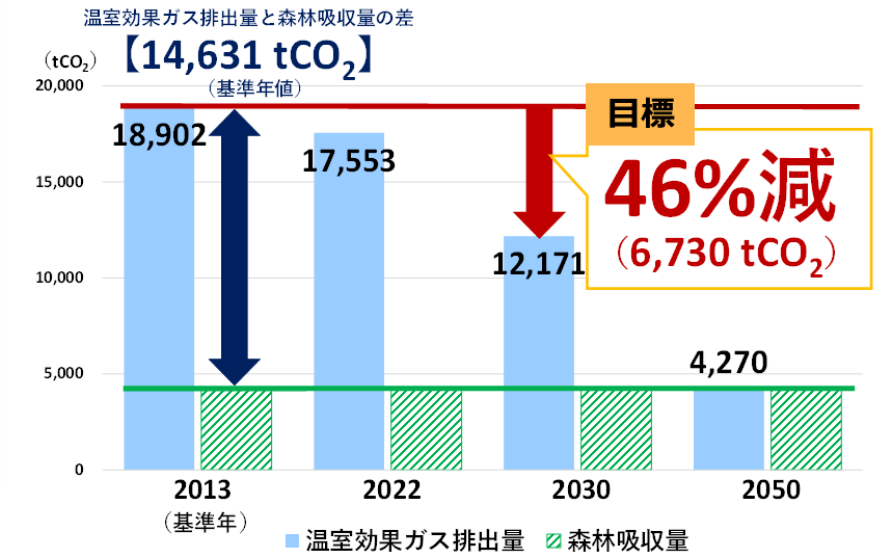
本会議開催の背景

地球温暖化対策実行計画の策定

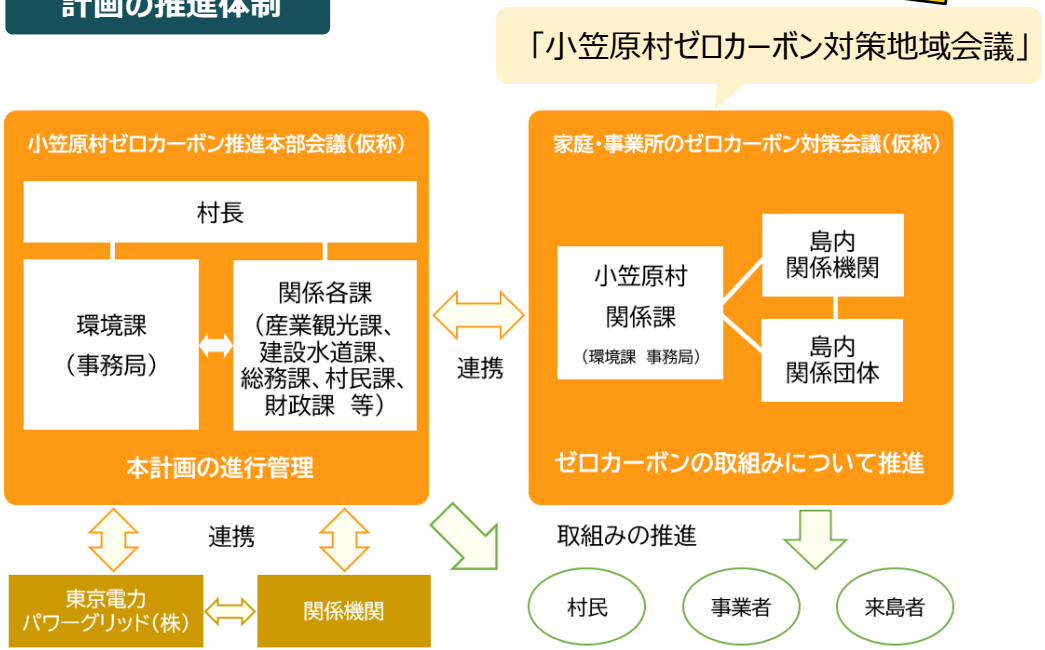
小笠原村は2024年３月に温室効果ガスの排出量削減等を推進するための総合的な計画である「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）～スイッチおがさわライフ　ゼロカーボン大作戦～」を策定しました。

削減目標

2030年に基準年比（2013年度比）**46%削減**
長期的には2050年までに**CO_2排出量実質ゼロ**



計画の推進体制



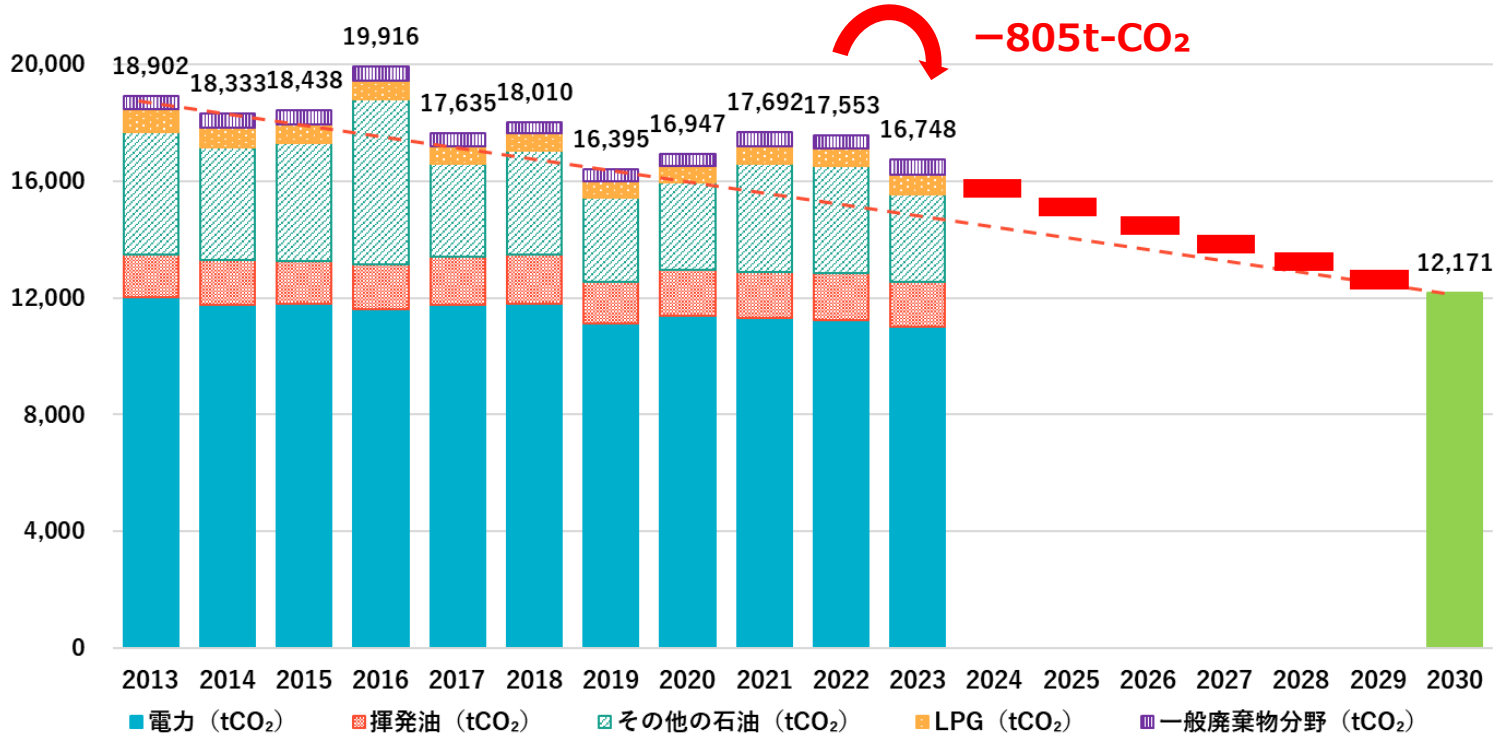
本会議は、家庭や事業所をはじめとした村民のゼロカーボン活動の推進を行うために、島内の様々な主体の皆さまにご参加いただく会議体として立ち上げられました。
昨年度は暮らしに身近な取組として、ごみ分別ガイドブックの検討などを通じてごみの減量化・資源化について議論を行いましたが、今年度は主に村民主体の活動支援について考えます。

１．小笠原村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の実施状況について

2023年度の温室効果ガス排出量の推計結果について①

小笠原村の温室効果ガス排出量の推移

- 2023年度（令和５年度）の小笠原村全体の温室効果ガス排出量は、**16,748t-CO_2**でした。
- これは、基準年度の2013年度（平成23年度）と比べて**2,154t-CO_2の削減**であり、昨年度の2022年度（令和4年度）からは**805t-CO_2**の削減でした。
- この削減量が毎年維持できれば、2030年度の削減目標（2013年度比46%削減）を達成できる見込みです。しかし、猛暑の年にはエアコンの使用量が増えてしまうなど、過去にも排出量の増減について変動があることから、**今後も増加に転じないように注意が必要です**。



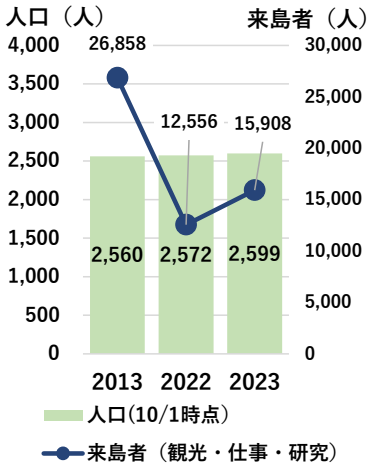
図：小笠原村の温室効果ガス排出量の推移

2023年度の温室効果ガス排出量の推計結果について②

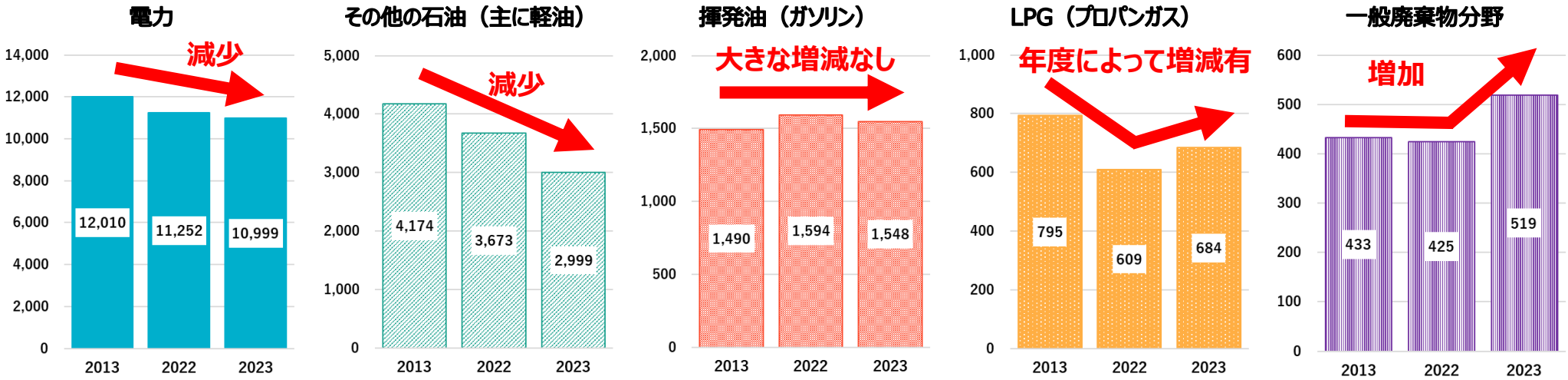
エネルギー別の温室効果ガス排出量の推移

- 主な排出源である「電力」、「その他石油」は排出量が減少傾向にあります。村民の皆さんが省エネ行動に取り組んだことや設備・機器の省エネ性能の向上が減少の要因のひとつと考えられます。
- 一方で、排出量を占める割合が少ない「揮発油（ガソリン）」、「LPG（プロパンガス）」、「一般廃棄物分野」は、それぞれ増減の傾向が異なります。
- 今後は、これまでの取組を着実に推進するとともに、**防災や産業・地域の活性化を踏まえたエネルギー対策の推進やゴミの減量化などの取組を推進**し、温室効果ガスの排出量を削減していくことが重要と考えられます。

【参考】人口と来島者数



排出量の増減には人口や観光客数が影響すると考えられますが、増減はきれいに一致していません。



図：エネルギー別の温室効果ガス排出量の推移

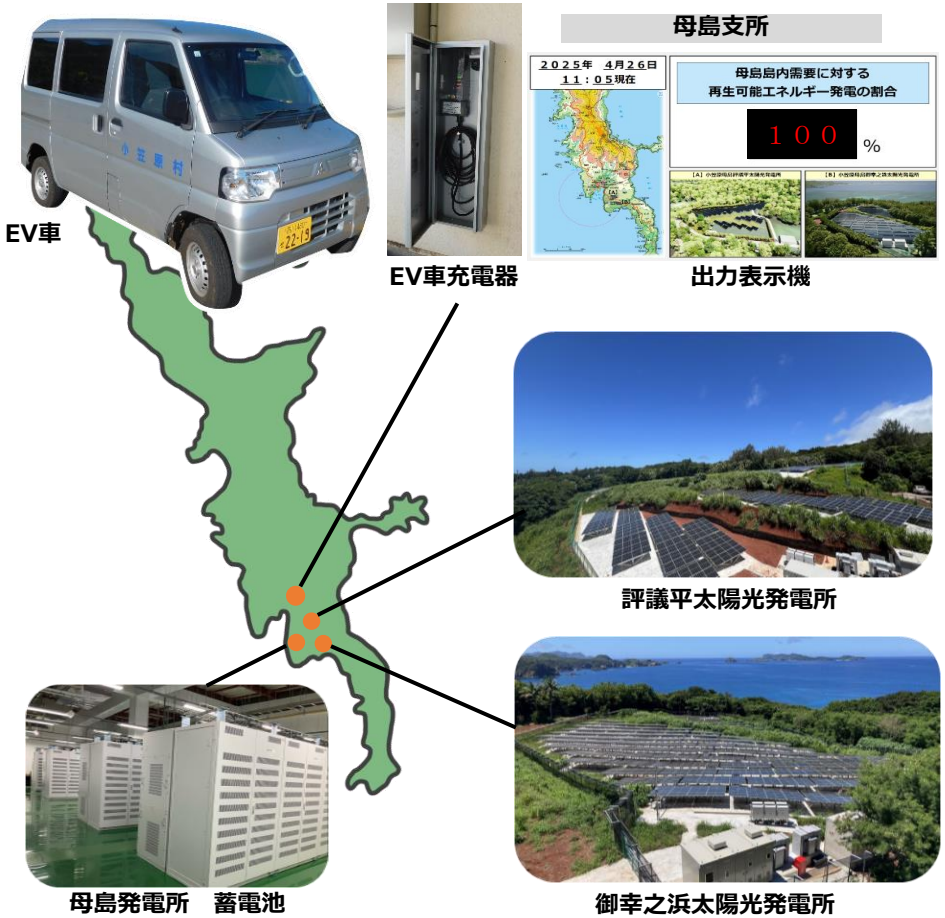
【参考】令和7年8月～母島太陽光発電所の実証運転開始について

母島で再生可能エネルギー100%での電力供給を行うための実証事業（３年間）が開始します。

設備概要

太陽光最大出力：1,492kw
　評議平太陽光発電所　：718kW
　御幸之浜太陽光発電所：774kW

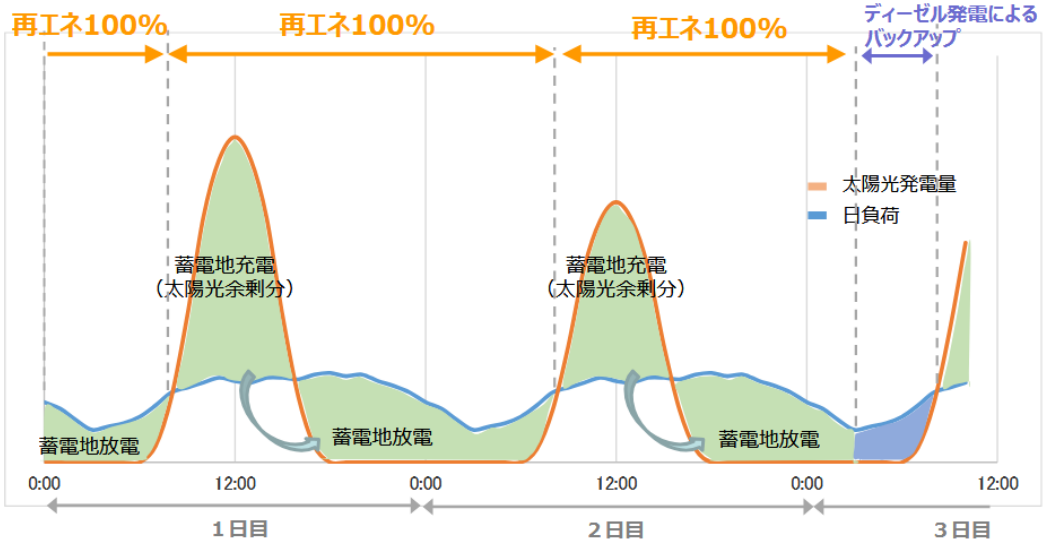
出力表示器：小笠原村母島支所内
ＥＶ充電器：小笠原村母島支所駐車場
蓄電池関係：母島内燃力発電所構内
　蓄電池容量：7,815kWh



再生可能エネルギー100%とは？

昼間は太陽光発電で電力を供給、余った電気を蓄電池に充電し、夜間は蓄電池からの放電で電力を供給する事で、再生可能エネルギー100%での電力供給を実現します。

昼間の天候により電力供給が不足する場合は、既設設備となる母島発電所のディーゼル発電機により不足分を補います。



再エネ100%電力供給のイメージ

室効果ガスの削減効果（推計）

母島太陽光発電所が運転開始すると…

年間　**1,050 tCO_2**　の削減が見込まれます！

2030年までの削減目標
2013年比6,730tCO_2の
約1/6！

村の再エネ比率※

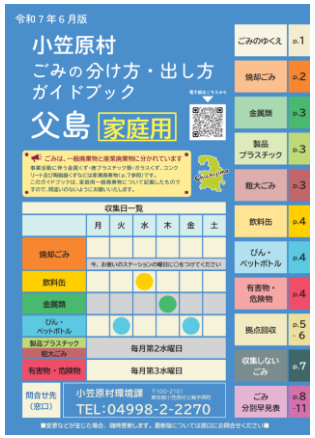
※電力使用量のうち、再生可能エネルギーが占める割合

2022年度		2025年度（試算*1）
1.8%	➡	**13.8%**

令和6年度のゼロカーボン大作戦の取組状況とこれから

●2024年度（令和６年度）は以下に示す取組が主に進みましたが、ゼロカーボン大作戦の全てに着手できているわけではありません。今後は、まだ着手できていない取組をどのように進めていくか検討して実行に移すことが重要です。
●また、排出量が多い分野について、対策を継続・強化していくことが求められます。

作　戦	令和6年度の主な取組実績
作戦1 みんなで取り組む脱炭素	○ゼロカーボンワークショップ実施　○村民だよりによる情報発信 ○小学校ごみとリサイクル授業　　○ごみ分別ガイドブック作成
作戦2 島ぐらし楽しく快適に脱炭素	○省エネ家電製品普及促進事業補助　○公共施設におけるLED照明の導入 ○公用車にEV車導入（母島）　　○ZEV協定に基づく村民のEV購入支援
作戦3 自然パワーで脱炭素	○情報センターへ太陽光発電設備導入　○母島太陽光発電所建設事業の推進 ○北港バイオトイレ（太陽光パネルと共に新設）
作戦4 ごみも資源だ脱炭素	○製品プラスチックステーション回収の実施　○資源リサイクル拠点回収の実施 ○生ごみコンポストモニター実施
作戦5 脱炭素型エコツーで満喫	○母島シェアサイクルの試行
作戦6 守れBONINの森と海	○小笠原諸島世界自然遺産管理計画に基づく森林等の適正管理 ○オガグワの森イベントなど地域と連携したイベントの実施



◀ごみの分け方・出し方ガイドブック（上：父島、下：母島）

今後の課題として、以下のことが挙げられます。

【省エネ】　・家庭や事業所の省エネ、ゴミ削減の推進（ソフトや普及啓発事業）
**　　・エコドライブや相乗りなどソフトの普及啓発や交通システムの検討**
【再エネ】　・再エネの導入やメンテナンスに向けた、電気事業全体の活性化・技術者や事業者の確保
**　　・既に推進しているEV車普及のための太陽光発電による充電設備の検討（父島）**

２．令和7年度の取り組みについて

（１）家庭における生ごみコンポストの普及
（２）ごみ処理施設の視察会
（３）脱炭素まちづくりアドバイザー
（４）令和7年度のスケジュール

（１）家庭における生ごみコンポストの普及（1/2）

生ごみコンポストとは

●家庭から出る生ごみや落ち葉等の有機物を微生物の働きによって発酵・分解するものです。
●蓋とケースを用意し、その中に土を入れて、土の中に生ごみを埋めるだけで発酵・分解が進むため、ステーション改修する生ごみの削減にもつながります。

令和６年度　生ごみコンポストモニターの実施について

●令和6年10月に実施したゼロカーボンワークショップの開催に合わせて、コンポストモニターに参加する方の公募を行いました。
●参加申込をいただいた村民（19名）の方々に父島の土を使用したコンポストを配布し、その使用の様子を１・３・５か月後にアンケート調査にてモニタリングを実施しました。

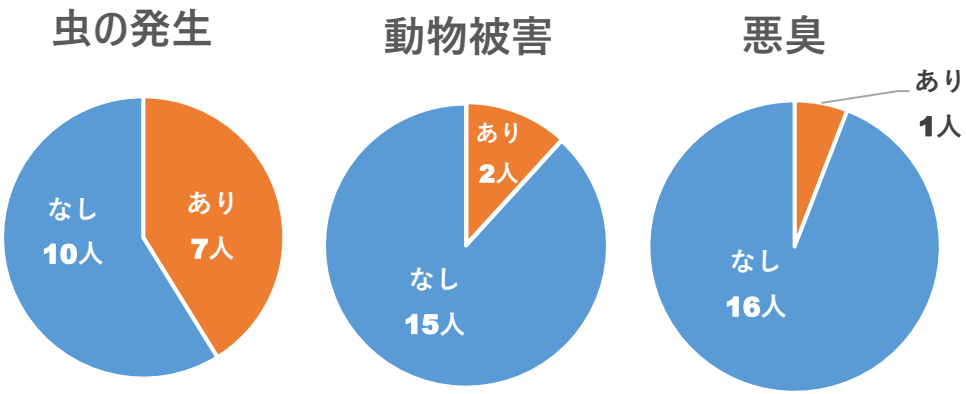
ゼロカーボンワークショップの様子

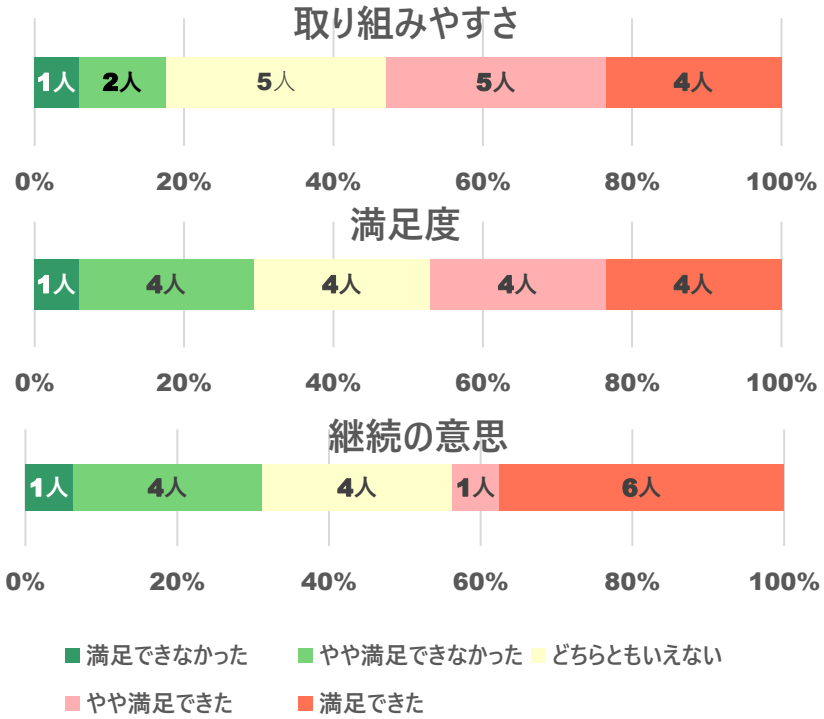
配布したコンポスト

（１）家庭における生ごみコンポストの普及（２/2）

令和６年度　コンポストモニター実施結果

モニター19名中、17名が回答





●虫の発生や動物被害、悪臭などに対する問題意見はそれほど多くなかった。

● ３項目とも満足度が高いとは言えない結果となった。

●今回は気温が低い期間を含んでいたため、なかなか分解されないという声もありました。
●悪臭の発生報告はほとんどなかったので、生ごみ管理のコツを掴んできた人が多かったと思われます。
●容量が小さく、**「土が混ぜにくい」「生ごみの分解が追い付かない」**などの意見が多く上がりました。

⇒今年度は、大きいサイズのコンポストを作成するワークショップを予定しています。
・手作りの木製コンポストを作成します。
・木工作業を行うことから1回の受け入れ人数が少なくなるため、2回に分けて開催予定です。

（２）ごみ処理施設の視察会

ごみ・資源回収の課題や
現場の声を聞く機会に

父島：クリーンセンター視察

●繁忙期を避け、かつ母島から来島しやすい日程（おが丸入港前便：1泊 2日または おが丸出港後便：2泊3日）で、クリーンセンターの視察を実施します。日程候補と行程案は以下の通りです。

【日程候補】
1泊２日便
①11月19日（水）― 20日（木）
②12月　9日（火）― 10日（水）
③12月17日（水）― 18日（木）

2泊3日便
④12月　7日（日）―９日（火）
⑤12月21日（日）―23日（火）

	行程（案）			
	１泊2日便の場合		２泊3日便の場合	
初日	16:00	父島着	14:00	父島着
	夕方	第2回会議（父母合同）		
２日目	午前	クリーンセンター視察	午前	クリーンセンター視察
	12:00	ははじま丸出港	午後	第2回会議（父母合同）
３日目			7:30	ははじま丸出港

母島：リレーセンター・村の生ごみコンポスト、母島太陽光発電所視察

●リレーセンター、村の生ごみコンポストおよび母島太陽光発電所の視察を実施します。
●日程は、母エネ施設の見学の見通しが立ってから検討します。
●行程は日帰りを想定しています。
11月25日（火）、26日（水）
12月3日（水）、9日（火）16日（火）17日（水）

行程案	
9:30	母島着
～12:30	視察
14:00	ははじま丸出港

（３）脱炭素まちづくりアドバイザー（1/2）

脱炭素まちづくりアドバイザーの招聘

- 環境省では、地域脱炭素に取り組む地域を応援するために、地域脱炭素に関する専門的な知見を有するアドバイザーを地方公共団体に派遣する「脱炭素まちづくりアドバイザー制度」を実施しています。
- 村では、同制度に応募して、脱炭素アドバイザーの服部氏より、主に取組成果が見えにくい「省エネ」施策について１年間、助言・協力を得る予定です。

脱炭素まちづくりアドバイザープロフィール

氏名	服部 乃利子氏
所属	しずおか未来エネルギー㈱代表取締役社長、静岡県地球温暖化防止活動推進センター次長
専門領域	地域脱炭素等に関する普及啓発、行動変容、計画策定、環境エネルギー教育プログラム作成、地域合意形成、人材育成 等
略歴	2004年、環境省認定環境カウンセラー市民部門取得。ご当地エネルギー協会・全国小水力利用推進協議会・会議ファシリテーター普及協会各理事静岡市消費者協会事務局長を経て、2006年より静岡県地球温暖化防止活動推進センターに勤務。 現在、次長として脱炭素社会実現に向けた県民運動や県内自治体、企業、団体、学校、市民の皆さんと共にユニークで実効性のある様々な温暖化対策、デコ活推進事業に取り組む。 2012年、地域主導型再生可能エネルギーの普及推進をメイン事業とするしずおか未来エネルギー株式会社を立ち上げ、代表取締役社長に就任。「産官学民金」と連携し、全国初少額市民ファンドを活用した太陽光発電事業をはじめ、事業開発、人材育成カリキュラム、環境エネルギー教育の推進及びプログラム開発等を手掛ている。

出典：環境省脱炭素地域づくり支援サイト「脱炭素まちづくりアドバイザー紹介」より抜粋
（https://policies.env.go.jp/policy/roadmap/assets/platform/hrlist-033.pdf）

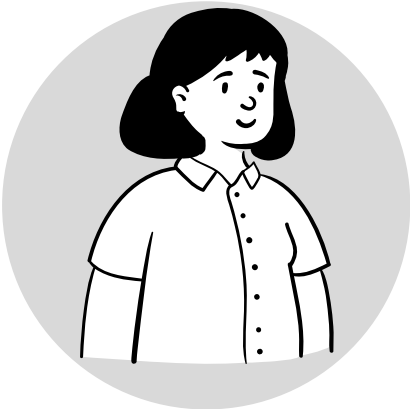
（３）脱炭素まちづくりアドバイザー（2/2）

まずは、アドバイザーに
村の生活特性の情報を提供
することから始めます。

脱炭素まちづくりアドバイザー活用のイメージ

ゼロカーボンを推進するにあたり、村が抱える疑問点や課題を提示し、
情報提供した村の特性などを基に、村ならではの取組や施策に関する情報を提供していただきます。

小笠原村



省エネに関する疑問や課題
＊何をすればいいのか分からない
＊省エネって難しい
＊我慢しないといけないの？

**脱炭素
まちづくり
アドバイザー**

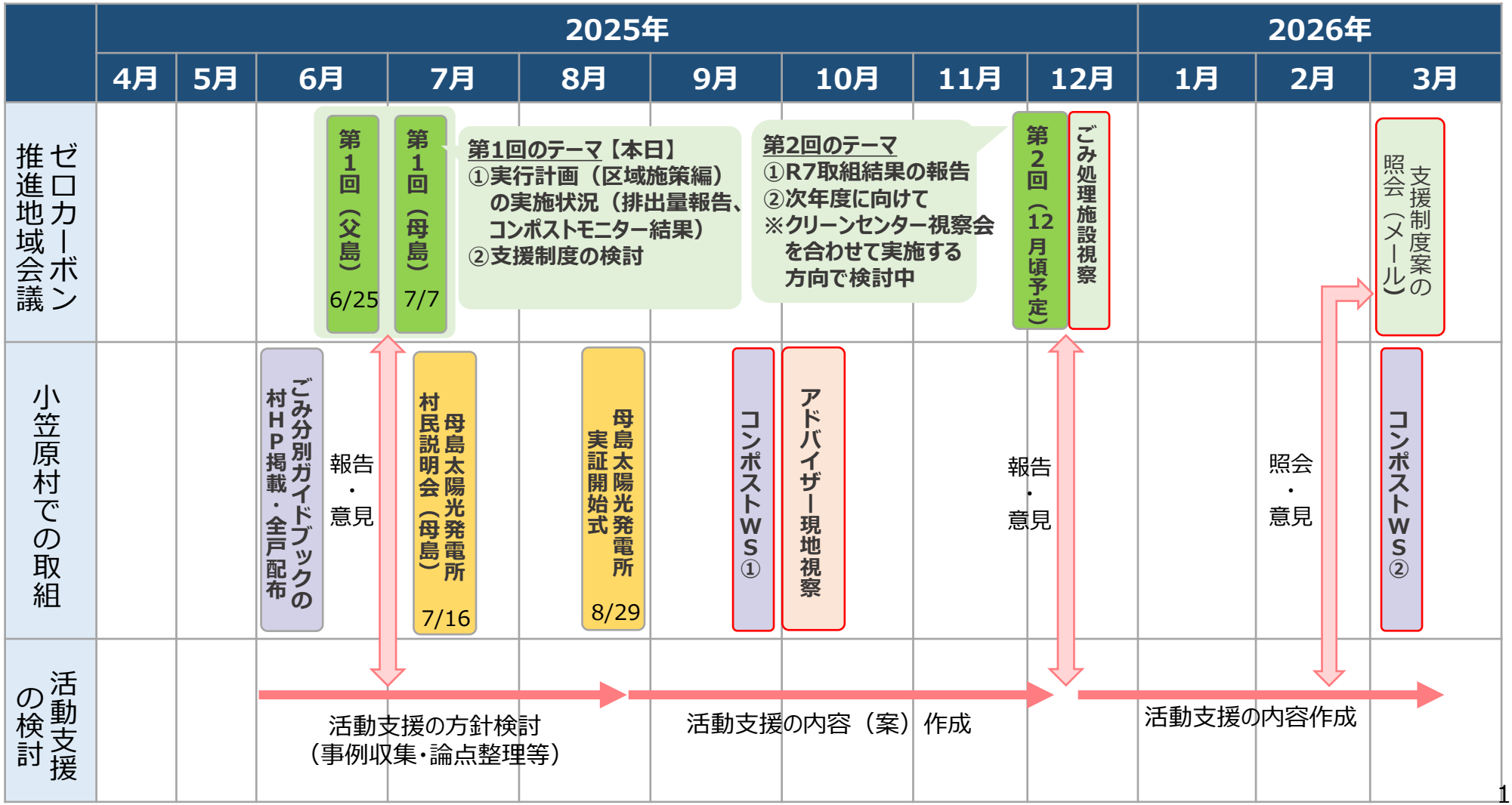
情報提供
小笠原村の暮らしの特性
＊移動（車・バイク・船…）
＊暮らし（冷房・冷蔵庫・除湿器…）
＊暑さ、寒さ
＊無駄がありそうな点　など

提供された情報を基に
課題を整理。
有効な取組や施策を提案。

村ならではの取組・施策の検討
＊省エネの普及啓発方法
＊続けられるアイデア
＊効果が分かる取組

令和７年度のスケジュール

- 会議は年2回を予定しており、小笠原村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の実施状況の報告や、ゼロカーボン推進に関する活動支援の検討を行います。
- 令和7年度は、母島太陽光発電所の運転開始、脱炭素まちづくりアドバイザーの招へい、昨年度に引き続き生ごみコンポストWSを予定しています。



3. 意見交換
（村民主体の活動支援に関する検討）

村民主体の活動支援に関する検討

現状と課題

村では年1回程度のゼロカーボンワークショップを開催していますが、行政主導の取り組みだけでは広がりに限界を感じています。

一方、村民で環境保全に係る活動を行っている団体が複数存在しており、**これらの活動を支援することで、村の各所で自発的な活動が広がることが期待されます。**

そこで今年度は、村民主体のゼロカーボン推進活動の支援に関する検討を行います。

論点

① 現時点でゼロカーボン推進に関する活動として、どのようなものがあるか？

例えば… 特定の品物を回収・資源化する取組 など

② 今後、新たに広がると良い活動としてどのようなものが考えられるか？

例えば… ゼロカーボンの普及啓発に係るイベント（ライトダウン、ノーカーデー等）や講座の開催 など

活動主体 ・ 活動内容 ・ 活動の効果

③ これらの活動を開始する・広げるために不足しているものは何か？

話合いの場 ・ 活動のマッチング ・ 広報支援 ・ 資金 ・ 活動の表彰 など